

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 5月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902009		
法人名	有限会社 和の里		
事業所名	グループホーム 和の里		
所在地	旭川市神楽岡12条3丁目1番16号 (電話) 0166-66-4888		
評価機関名	北海道社会福祉協議会		
所在地	札幌市中央区北2条西7丁目		
訪問調査日	平成19年5月23日	評価確定日	平成19年6月25日

【情報提供票より】(19年 5月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 2月 1日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 15 人
職員数	16 人 常勤 9人, 非常勤 7人, 常勤換算 12,4人

(2) 建物概要

建物構造	造り		
	2階建ての	1~2	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000 円	

(4) 利用者の概要(5月 1日現在)

利用者人数	15 名	男性	2 名	女性	13 名
要介護1	3	要介護2	4		
要介護3	6	要介護4	2		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均 79,5 歳	最低	63 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	緑が丘クリニック・旭川南病院・村上内科小児科医院
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは閑静な住宅街に位置し、敷地内には畑やテラスが設けられるなど全体的に家庭的な落ち着いた雰囲気作りがなされている。簡潔で明確な理念の基で、入居者の自立支援を目標とした介護が提供されている。看護師が常勤しており、主治医との連携が密に取られているため医療的な安心感が高い。最近においては、地域との交流行事を住民と協議しながら計画する等、住民との協働による地域に根ざした事業所づくりがなされている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営理念の掲示場所が、玄関正面の見やすい場所に変更され、誰もが目にすることができるようになった。また、苦情・相談受付が、ホーム内に担当者の顔写真入りで複数掲示されており、分かりやすくなった。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	地域との関わりにおいて、職員と地域住民が話し合いを重ね、交流が促進できるよう具体的な実施計画を立てるなど、自己評価にて課題とされた事項に関して意欲的・具体的な取組みが始められている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	利用者代表・家族・町内会長・地区民生委員・居宅介護支援事業所の介護支援専門員が集い、運営推進会議が発足された。また、地域交流の一環として盆踊り開催について提案・実施検討がなされるなど、地域と事業所が理解を深め合う機会を設けている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	ホーム利用者の家族会が組織され、利用者の近況や職員の移動に関して会の開催時に報告がなされている。今後の取組みとしては、ホーム内での日常生活状況や職員による業務改善への取組み状況の報告等を、家族へ定期的に情報提供していくことを期待する。また、ホームの運営や支援内容に関心を持ってもらったり、苦情・誤解・行き違いを未然に防ぐ手段として積極的に家族に情報を発信していくことを期待する
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	これまで地域との盆踊りに参加したり、近隣の地区センターに文化交流として工芸品の出品展示をする等の地域交流がなされていた。今後の地域連携の試みとして、地区の民生委員とともに近所の独居高齢者との交流会を開催する、地区婦人部のお茶会・地区ソフトボール大会応援観戦・ホームの畑管理を住民と協働していくなど交流の機会が多く企画されている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	設立時に定められた理念である「自分のことは自分で」は、覚えやすく分かりやすい内容で、職員間やホーム内に理解・浸透されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を基に、利用者の自立を重点においた介護計画の作成や介護支援が行われている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の盆踊りに参加したり、近隣の地区センターに工芸品の出品展示したり、回覧板を持ち利用者と職員が共に歩いて近所を訪問するなど、地域との交流が図られている。	○	今後、地区の民生委員とともに近隣の高齢者と交流会を開催したり、盆踊り大会の共催やホームの畑管理を住民と協働していくなど、地域との交流が予定されている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	理念の掲示場所は、見やすい位置に改善されていた。また、苦情窓口の案内は、担当者の顔写真入りになり、分かり易くなっていた。地域との関わりにおいては、職員と地域住民が話し合いを重ね、交流が促進できるよう具体的な取り組みがなされていた。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>利用者代表・家族・町内会長・地区民生委員が集い、運営推進会議が発足された。また、地域交流の一環として盆踊りの開催が提案・検討されるなど地域と事業所が理解を深め合う機会として活用され始めている。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>医療連携体制加算の実施について、市と協議しながら実務について意見交換を行っている。職員が認知症キャラバンメイトとして登録を受け、地域活動を市と共に協力して実施するなど地域貢献を目標とした活動をしている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>利用者の家族会が組織され、会合の中で利用者の近況について報告がなされると共に、通院時や状態変化があった場合には、そのつど情報提供がなされている。また、職員の異動の状況に関しても家族会にて報告がなされている。</p>	○	<p>今後、利用者の生活状況や職員の業務改善への取り組み状況の報告等を、定期的に家族に情報提供していくことが望まれる。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情担当者が顔写真入りで、事業所内の複数箇所に掲示されている。外部機関への連絡も取れるよう重要事項説明書に明示されていると共に説明がなされている。また、近隣住民からの苦情に対しては、担当者が住民に対して説明対応すると共に、介護支援内容の見直しが行われている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の体調や状況に合わせた勤務ローテーションが組まれており、職員の離職数減少させることができた。また、職員の異動や離職に際してもフォローできる支援体制が構築されている。さらに、経営者も可能な限りホームに出勤し、介護体制をバックアップしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症に関する研修参加や介護福祉士の資格取得のための学習支援が計画的になされている。研修受講後は職員間で報告がなされ、知識の共有とスキルアップが図られている。また、服薬に関する知識や緊急対応の研修について、看護師を中心とした内部研修が行われている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、職員は積極的に研修に参加している。管内や市内にて実施されている各種介護技術・医療対応等の研修会に参加し、他の事業所の職員との情報交換が図られている。	○	他の事業所職員との実務的な技術向上・学習・情報交換のため、近隣の小規模多機能事業所と職員相互研修が企画されている。今後、継続的に研修を実施し、職員のスキルアップと意識の向上・相互の親睦が深められることを期待する。
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前に本人・家族と面接し、事前見学してもらったり、顔見知りの関係を構築してから入居してもらうなど配慮がなされている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ハーモニカが得意な利用者に、合唱時に演奏してもらい、利用者・職員相互に楽しむ時間を設けている。また、野球観戦を楽しんだり、姓名判断が得意な利用者に職員が占ってもらうなど、利用者の特技を発揮することができ、職員が教えてもらったり楽しみを共有する機会を多く設けている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>事前に家族からの情報収集を行い、利用者に合わせた支援ができるよう介護計画に反映させている。本人が意向・要望の表出をすることが困難な時には、職員が本人の心情や嗜好を汲み取り、状態観察をしアセスメントをして目標設定を行っている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>月に2回開催されるケースカンファレンスにおいて、利用者一人ひとりの状態が定期的に検討されている。家族からの情報や職員の気付きを基に介護計画が作成されているが、現状ではアセスメントの内容が介護計画に十分に反映されていない状況が見られる。</p>	○	<p>利用者・家族の情報やアセスメントが介護計画に活かされ、意見や希望が日々の生活で実現できるような介護支援が実践されることを期待する。また、より一層利用者の望みや思いが介護計画に反映されるよう、アセスメントシートと介護計画書の工夫が望まれる。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>1ヶ月半に1度の利用者カンファレンス時に介護計画が見直されている。状態変化があった場合は、そのつど家族と協議しながら計画の変更が行われており、職員は連絡ノートを活用しており、変更等が周知されている。</p>	○	<p>カンファレンスでは利用者一人ひとりの状況について検討がなされているが、その内容は利用者の変化や症状に関するものが中心となっている。介護計画の見直しの際にも、本人・家族の思いや希望が確認され、計画に十分反映されるよう、業務体制や帳票類を整理することが望まれる。</p>
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>協力医療機関や主治医と協力して、長期入院を回避したり、家族が通院支援できない場合の通院対応に関する要望や付き添い支援に対して、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の眠剤使用に関しては、主治医と協議しながらその使用量を調整するなど、安心感の高い支援がなされている。また、医療機関受診時には、ホームでの経過がわかりやすく的確に主治医に伝わるよう、情報提供書を作成し医師に引き継ぐなど、適切な医療が受けやすい環境を整えている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の支援に関する同意書を作成し、事前に対応指針について家族へ説明がなされている。また、協力医療機関・主治医に往診してもらえ協力が築かれている。	○	今後、予想される対応方法や支援体制準備のために具体的な支援方法を職員間で話し合い、研修を進めていく事が望まれる。ホームとしての対応方針と支援内容を、より分かり易く具体的に定めて家族に掲示していくことで、職員・家族とも不安感が払拭できることを期待する。また、終末期ケアを実践している他のホームで職員研修するなど、実際の介護場面を体験し支援技術を身につけることも期待する。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への郵便物の取り扱いについて事前に家族と協議がなされ、開封や転送の方法が定められている。また、介護に関する記録物は利用者が過ごす場所から離れた場所に保管されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの1日の生活状況は個別の介護シートに記録されており、職員が確認しながら支援がなされている。また、できるだけお金を自己管理してもらおう・外食する・散歩するなど利用者の希望に合わせた支援がなされている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員が共に買い物・食材の準備・調理・配膳に参加している。食事の介助が必要な利用者には職員がさりげなく隣に座り、同じ物を食べながら声掛けや介助がなされている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望や身体機能に合わせながら、日中を中心とした入浴介助が行われている。また、浴室は動作がしやすいよう、少し広めの家庭的な浴槽配置になっており、滑りづらい床材が使用されている。	○	利用者から夜間の入浴希望があった場合には、個々の主治医と協議しながら出来るだけ要望に沿った支援ができるよう配慮することが望まれる。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌の好きな利用者が、地区センターのカラオケサークルに定期的に通って参加するなど、職員が付き添いや送迎をしながら個々の利用者の楽しみごとの支援を行っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物・散歩・美容院など利用者の希望やペースに沿った外出支援が行われている。寒冷期や悪天候時など外出できないときには、ホーム内で活動しながら体を動かしてもらおうプログラムが実施され、運動不足にならないような配慮がなされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ玄関の施錠をしており、日中は自由に出入りができるようになっている。居室に鍵はないが、プライバシーが守られるようなドアが設置されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議で地域へ協力を要請している。また、防火避難訓練を消防と協力して実施し、職員が災害時に対応できるよう研修が行われている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分・食事の摂取量は記録され、職員は把握している。特に、摂取量の少ない人には主食・副食が分けて記録されているとともに、糖尿病等に関しては間食摂取量も把握がなされている。体重と摂取量の状況は主治医と協議され、病状改善のための管理がなされている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の要所に手すりを取り付けられており、廊下には採光用の天窓が設置されている。共用空間から少し離れて寛げるスペースが設けられている。また、いつでも外気に触れることができるテラスがあるなど落ち着いた雰囲気作りがなされている。	○	利用者が共用できる洗濯機上の棚に漂白剤が置かれていたり、トイレ内の手の届く場所に塩素系洗剤が置かれていた。利用者の誤飲事故発生等の可能性を意識し、今後、置き場所の検討が望まれる。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅にて使用していた馴染みの物を持参してもらおうよう職員から本人・家族に話している。仏壇持参の場合にはクローゼットを活用して設置したり、夫婦入居には居室間の壁を改修して続き部屋にするなど、限りある居室空間を心地よく過ごせるよう柔軟な対応がなされている。		

 は、重点項目。